

町民のひろば

皆さんが参加するコーナーです。耳よりな情報、ご意見、ご質問など気軽にお寄せください。総務課広報広報統計係 内線257

今日のスポット

江刈小運動会
(5月20日)



真心添えて焼き豚届く **炭にまつわるいい話**

**「炭のゆくえが知りたい」
5年目になつた児童の願い**

「炭がどこへ行って、だれがどのように使っているか知りたいです」。平成十三年、小屋瀬小三年生六人が地元で作られた炭のゆくえを勉強するため、出荷する炭袋の中に入れた手紙が四月中旬、静岡県静岡市で見つかりました。

三越屋精肉店を営む大久保和夫さん(73)が、店で売る焼き豚を作るために五十年來使っている「岩手木炭」を近くのホームセンターで購入したところ、炭袋の中から「この炭を買った人へ」と書かれた封筒を発見。手紙には、山崎さんという人が炭を作り、

その人が自分の作った炭に誇りを持っていること、炭のゆくえを知りたいこと、炭のゆきなどを紹介され、「この炭を使った人は、お手紙をくださいます」とつづられていました。

大久保さんは、小学校の住所や児童の名前を頼りに捜し始め、このことが新聞にも取り上げられました。「手紙から優しさやひたむきさを感じました。その気持ちを忘れずに成長してほしい」と炭火で焼いた焼き豚が先日送られてきました。

現在、その六人は小屋瀬



届いた焼き豚や当時の手紙などを手にし、喜ぶ小屋瀬中2年生

中二年生。突然舞い込んだ知らせにクラス全員で喜びを分かち合いました。「炭の流通先や使われ方が分かって良かった」と話す大石奎嗣君。水谷尚美さんは「びっくりしたし、うれしかった。私たちが大久保さんにお礼の手紙を書きました」と思わぬ交流に笑顔がはじけます。



二人三脚で炭焼き一筋50年の山崎さん夫妻

当時、炭袋百個に入れたという手紙。生徒たちは、五年の歳月を経て遠い静岡で発見された驚きと、自分たちの願いに応えてくれた大久保さんの思いやりに感謝の気持ちでいっぱいです。

その炭を作った「山崎さん」は、今なお鈴木商店で炭焼きを続けている小屋瀬の山崎重一さん(81)と妻のハナさん(74)。この話を告げると、びっくりしながら「息子と娘も今、静岡県に住んでいるんですよ」と重なる偶然に笑みがこぼれます。

**わが家の
マイドル** (289)



中橋 星河ちゃん
(3歳2カ月・四日市) 淳也) さん長女 綾香)

歌や踊りが大好きで、保育園で覚えてきた歌を得意げに披露してくれます。ご飯の準備や後片付けなどのお手伝いをしたり、妹の面倒を見てくれる優しいお姉ちゃんです。元気で、明るく思いやりのある子に育ってね。 綾香



大石 祐也くん
(3歳10カ月・橋場) 通典) さん長男 礼子)

ホームアナウンスのまねをするほど新幹線が大好きです。野球に興味を持ち始め、バットを振ったりボールを投げたり、いつも元気いっぱいのお姉ちゃんです。健康が一番。たくましく優しい子に育ってほしいですね。 礼子

**ハイ、
元気です** 146

「運動すること」が健康の秘けつと話すマサさん。花畑の草取りや近くの山へ散歩に出掛けるなど、いつも体を動かすように心掛けています。

一番の楽しみは、老人クラブや高齢者大学に参加することです。「姪からもらったんですよ」と時間や季節に合わせておしゃべりする小さな人形を見せてくれました。和裁の経験を生かして、冬には法被を作ってあげたり「マフラーが欲しいよ」とせがまれると編んであげたり、目に入れても痛くないほどかわいがっています。



田村 マサさん
(83歳・城内小路)

ヤング 292



太田 裕明さん
(22歳・寺田)

自然を大切に!

- ◆勤め先は? 葛巻町森林組合で働いています。事務の仕事もしますが、今の時期は、主に下刈りや苗木の植え付け作業を行っています。機械を使うので、けがには注意しています。
- ◆自分の性格は? 明るいかな。
- ◆趣味・特技は? 2年ほど前から海釣りを始めました。今まで一度も釣れたことがないので、腕を磨いて、いつか大物を釣り上げたいですね。
- ◆今、一番したいことは? 昨年取得した重機オペレーターの資格も生かした仕事をしたいです。
- ◆理想の女性像は? 気が合う人。
- ◆十年後の自分は? 結婚してたらいいですね。
- ◆最後に一言。 山の手入れをし、今ある自然を大切にしましょう。